

みのはな

千葉大学医学部同窓会報 第54号

編集兼発行者
千葉大学医学部
みのはな同窓会報編集部
千葉市亥鼻1の8の1
千葉大学医学部記念講堂内

◆筑波大学・静岡医大の 教官人事決まる◆

……新設医大へ本学教官
大量進出……

連日新聞紙を賑わした筑波法。筑波大学は従来のような講座案など新設医科大学に関する法案制ではないので、今後に期待したは九月二十九日やうと国会を通過した。

それに伴って、各大学の設立準備室ではたまたに教官を公募し、ひきついで教官人事の選考が行なわれてきた。この程一部を除いて殆んどの教官が内定し、今月末に開かれる大学設置審議会の第一次審査待ちとなつてゐるが、正式には来年二月に予定されている第二次審査終了後に決定されるわけである。これまでの例によれば実際には特別の事情がない限り内定者は即、決定者となる。静岡医大に教授三名、助教三名が内定されている。さて、秋田大学医学部をはじめとして新設医科大学の教官人事は、もすれば学長、院長を選出した大学に偏して行なわれてきた傾向があったので、少くとも筑波、静岡岡田大学に関しては一つの大学から選出される教官は全体の1/3を超えないようこの原則を強硬に主張したのであるが、筑波大学はともかくとして静岡医大の人事は全く一敗地とされた感がある。

千葉医学会、千葉県医師会 連合学術大会開かる。

―興味深いアポロ病講演など―

第20回千葉医学会学術大会、第19回千葉県医師会学術大会、第12回日医医学講座、連合大会は十一月十七日(土)千葉大学医学部記念講堂にて開催された。

特別講演として国立予防衛生で一九六九年夏、アポロ11号が月



旧本館(時計塔)
病院建設のため現在はとりはづされました。

から帰った頃に西アフリカのガナにはじまり急激に世界にひろがりはじめたあたらしい型の特異な出血性結膜炎のことで、ガナナ達は何時とはなしにアポロ病と呼びはじめたらしい。一九七一年、これが日本に出現したが、甲野博士らが世界ではじめてそのウイルスを分離することに成功し、A H Oウイルスと名づけその病因探求に一応の終止符を打った。このたひ甲野博士はこのウイルスが如何なる経路を経て日本に至ったかを逆にとり、ウイルスの経路をしらべにアフリカに行かれたが、その話を現地のスライドと共に興味深く聞かれ、感銘を受け、封じ込められていた病気が世界にひろがる傾向については、今後も注意すべきであることを認識させられた。

日本医師会の藤沢正輝常任理事は「医療の近代化」について年来の御意見を要領よくまとめて話された。昨今日本の事象はハラハラと動いており、医療そのものも例外でないことを注意され、地方医療のシステム化を力説された。

生物活性研究所 発足す

腐敗研究所の名称変更◇
昭和二十一年に設置された千葉大学腐敗研究所は幾多のすぐれた成果を生んできたが、研究内容は腐敗という対象に限局されずに発酵、微生物産生の毒性物質や抗生物質、あるいは発酵物質に対する生体の応答機構など生物活性に関する研究が広く進められてきた。そこで腐敗研究所教授会ではかねてより実際に即した名称への変更を考慮中であつたが、学術

研究の今後の発展をも加味してこの種「生物活性研究所」と名称を変更することに、十月二十七日改称が披露された。

現在、医薬、農薬、食品、環境衛生などに関する研究機関は内外を問わず個別的にはかなり設置されているようであるが、この研究所のような総合的に体系づけられたものはない。研究部門としては酵素化学研究部、薬理活性研究部、毒性病理研究部、性天然物化学研究部、抗生性研究部、食中毒研究部がある。

会費納入に関する 信託銀行利用のお願い

さて、みのはな同窓会費につきましては、会員の多大な協力により、健全な予算執行が行なわれておりますが、会費納入の面倒を省き、会計処理を簡素化するために、この際、従来より一部には行なわれていた、信託銀行を介する自動納入方式をさらに広くご利用いただくことが望ましく思われます。

信託銀行としては現在、東洋信託、三井信託の両千葉支店が取

- 扱いは行なっておりますので、左記にて照会下さいませよ、お願ひ申し上げます。
- ◎東洋信託銀行千葉支店、千葉市富士見二の三の一〇四七二(一七八二〇) 小林研児、安部長
- ◎三井信託銀行千葉支店、千葉市富士見一の一〇六〇四七二(一三三三三) 和田武博、佐藤直

みのはな同窓会 会計部

大学に思う

鈴木 五郎

前回にひきつづき、基礎て詳述されたものがある。桑田、医学教室についての述べた。

細菌衛生も今日の様なものでなかった。私共は細菌学を松村先生に、衛生学を緒方先生に習った。学生時代にこの学問がどんなものか余り熱心にききもせず教えられるもしなかった様である。卒業後になって何彼と知るようになった。

松村先生は外遊から帰られて衛生学を担当され、古澤雄という方が助教でいたが、その後には谷川君が早く助教となり教室は腸内菌叢の研究が盛であった。私共は松村先生から学問の教を受けたことは、学生時代の講義以外にないが、今日迄五十年間に亘って教導をうけている。先生は米寿を前にしてお六月九日に他界されたが、私はわが医学部の精神的支柱ともいふ可き存在に思っ居た。問題は人物である。交り深く傾倒する所、大である。門弟に元学長谷川、現学長相磯、元教授柳沢、田坂等々の諸君がある。矢張り立派なことと思う。

緒方規雄先生からは衛生の講義をきいたわけだが、コービーの入れ方等きいたように覚えていた。緒方名門ともなるとこんなものかと思ひましたものである。所が卒業後に同級の海野、北川両君が入門し何やら仕事に打込んでいっている。遂にリッケチアの発見となりこの事は未来永劫語り伝えられるであろう。現教授の桑田君によ

い近くであったので御母堂の病室等よく伺ったことある。それよりも私は先生長期に亘る病氣と関連し印象強く残るのは奥様の容姿と奥様様である。立派な看護であったと思う。

病理には古くから大谷節夫、高島克己内藤藤助原田美幸等々が居て格別な空気の流れがあった。筒井秀二郎先生が初代教授だったと思う。私は講義をきく機会もなかったが四年生への授業中の先生の風貌容姿を密越に見聞分と感服した先生だと思った。聞けば落第を沢山つくと聞かれた。私共は石橋松蔵先生で大変驚かされた。「筒井秀二郎先生葬禮集」に五十年記念集が昭和四十三年に病理教室から出ているが今は亡き長友滝沢次郎教授の序文でどんな仕事であったかと判る。滝沢教授には戦中、戦後に出て臨床病理上の教示をうけた。その熱気のもった大声は格別なものがあり学内特異な存在であった。私は病理の教室に格別の親しみと尊敬が湧くのである。今は岡林篤、井出源四郎両教授で皆の知る通りである。

十数年ぶりに曾遊の地ドイツを訪れた。もちろん全部で三週間あまりの旅の途中でしたから、ほんのり高見に過ぎませんが、やはり、変わった所、変らない所があるように思えました。

まず服装ですが、昔だったら町を歩くのにネクタイをきちんと結び、上表を着ていないといけなかつたものが、今は開襟シャツなどの姿がかなりの路上で見られます。まさに開かれたドイツといったところですが、似たことが駅や街角の案内板で見られました。

たとえば出発、到着、料金所といった標示に、ドイツ語と並べて英語が、決して観光地ではない小さな町でも書かれていました。ハインベルクなどでは道を歩いていて耳に入る会話の三分の一は英語で、ココロの盛大な進出と

ゲッティング・クリム童謡碑の前にて一後に見えるのは新しい出来た団地ですが、新旧の景感に違和感がありません。

相まって、アメリカナイズも相当進んでいると見受けました。

大学も変貌しつつあります。学制改革による学部運営法の変化については、本学唯一のドイツにおける日本人教授である高野光司君が、かつて千葉医学会雑誌(1)巻4号)に寄稿されているので省略しますが、形骸的にみても、学部の集中化が始まっているように

つまり、何々教室はモコモコの通りに、何科は何町といったように、市中の処々方々に分散していったドイツの学部や教室が一定の構内に集められようとしていくわけです。もちろん旧市街内でそれをやることはできないので、郊外にある所に壮大な敷地を設定し、そこに地割りが行なわれて高層の建物が続々と建てられてきました。まさに私有地を買上げたわけではないのですが、とにかくミミチ日本のやり方と比べると、想像を絶する断行ぶりといえます。

内容も改められてきました。私が居りました当時の学生の最高定員は百二十名でしたが、今度行って見たら二百五十名になっていました。もっとも単位制が行なわれるので一回の講義に加わる人数はそれほど変らないのですが、教育に費される教官の労力は倍加したことになると思います。とくに実習はスモール・グループで行なうために

テレビとカセットテープが用いられています。ゲッティング大学生理のテーマは高野教授の苦心の作だそうで、学生一人に一つずつあてられ、学生が独学でやるように、上手に作られていました。

この設備の予算が国から出ないことは日本に似ていますが、大学のアピールによって出資してくれることなどは、彼らの価値感の大きな相違点だと思います。タバコ物価も上げていました。タバコが二倍、ビールが三倍ほどの値上りでしたが、一方ケウワリなどの野菜は十四年前とほぼ同じでした。フンボルトなどの給付金もそれに際して上っているの、エッセンの小山明君、ゲッティングの石田貴和君などの留学生達は、結構優雅な生活を送っており、ジレットがまの昔の留学生とはかなり違っていました。

とはいえ、なだらかな起伏の丘の緑、村落の中央に聳える教会の尖塔、牧歌的な牛の声をのせるサラリとした大気、典型的な針葉樹林など、ドイツの風土はまったく普通通りでした。都市の中には碑や彫像をもった大きな公園があり人工造のために新築された団地がもとの街との間に違和感を覚えさせない点なども、当時と全く変わっていません。

とくにマールブルクのような小さな都市では、良言は親切、悪言は憎め、かき、ドイツ人特有の人情が、また豊かに残っていて、久々に訪れた私を和ませてくれました。

ドイツ 今

萩原 弥四郎

十数年ぶりに曾遊の地ドイツを訪れた。もちろん全部で三週間あまりの旅の途中でしたから、ほんのり高見に過ぎませんが、やはり、変わった所、変らない所があるように思えました。

まず服装ですが、昔だったら町を歩くのにネクタイをきちんと結び、上表を着ていないといけなかつたものが、今は開襟シャツなどの姿がかなりの路上で見られます。まさに開かれたドイツといったところですが、似たことが駅や街角の案内板で見られました。

たとえば出発、到着、料金所といった標示に、ドイツ語と並べて英語が、決して観光地ではない小さな町でも書かれていました。ハインベルクなどでは道を歩いていて耳に入る会話の三分の一は英語で、ココロの盛大な進出と

ゲッティング・クリム童謡碑の前にて一後に見えるのは新しい出来た団地ですが、新旧の景感に違和感がありません。

相まって、アメリカナイズも相当進んでいると見受けました。

大学も変貌しつつあります。学制改革による学部運営法の変化については、本学唯一のドイツにおける日本人教授である高野光司君が、かつて千葉医学会雑誌(1)巻4号)に寄稿されているので省略しますが、形骸的にみても、学部の集中化が始まっているように

つまり、何々教室はモコモコの通りに、何科は何町といったように、市中の処々方々に分散していったドイツの学部や教室が一定の構内に集められようとしていくわけです。もちろん旧市街内でそれをやることはできないので、郊外にある所に壮大な敷地を設定し、そこに地割りが行なわれて高層の建物が続々と建てられてきました。まさに私有地を買上げたわけではないのですが、とにかくミミチ日本のやり方と比べると、想像を絶する断行ぶりといえます。

内容も改められてきました。私が居りました当時の学生の最高定員は百二十名でしたが、今度行って見たら二百五十名になっていました。もっとも単位制が行なわれるので一回の講義に加わる人数はそれほど変らないのですが、教育に費される教官の労力は倍加したことになると思います。とくに実習はスモール・グループで行なうために

テレビとカセットテープが用いられています。ゲッティング大学生理のテーマは高野教授の苦心の作だそうで、学生一人に一つずつあてられ、学生が独学でやるように、上手に作られていました。

この設備の予算が国から出ないことは日本に似ていますが、大学のアピールによって出資してくれることなどは、彼らの価値感の大きな相違点だと思います。タバコ物価も上げていました。タバコが二倍、ビールが三倍ほどの値上りでしたが、一方ケウワリなどの野菜は十四年前とほぼ同じでした。フンボルトなどの給付金もそれに際して上っているの、エッセンの小山明君、ゲッティングの石田貴和君などの留学生達は、結構優雅な生活を送っており、ジレットがまの昔の留学生とはかなり違っていました。

とはいえ、なだらかな起伏の丘の緑、村落の中央に聳える教会の尖塔、牧歌的な牛の声をのせるサラリとした大気、典型的な針葉樹林など、ドイツの風土はまったく普通通りでした。都市の中には碑や彫像をもった大きな公園があり人工造のために新築された団地がもとの街との間に違和感を覚えさせない点なども、当時と全く変わっていません。

とくにマールブルクのような小さな都市では、良言は親切、悪言は憎め、かき、ドイツ人特有の人情が、また豊かに残っていて、久々に訪れた私を和ませてくれました。

とはいえ、なだらかな起伏の丘の緑、村落の中央に聳える教会の尖塔、牧歌的な牛の声をのせるサラリとした大気、典型的な針葉樹林など、ドイツの風土はまったく普通通りでした。都市の中には碑や彫像をもった大きな公園があり人工造のために新築された団地がもとの街との間に違和感を覚えさせない点なども、当時と全く変わっていません。

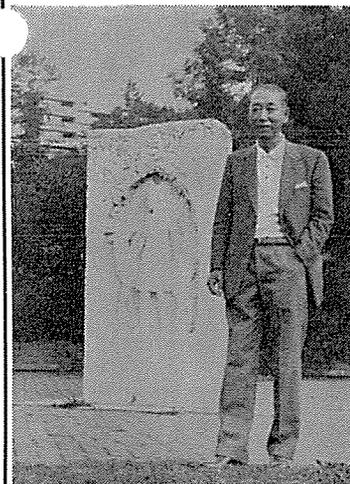
とくにマールブルクのような小さな都市では、良言は親切、悪言は憎め、かき、ドイツ人特有の人情が、また豊かに残っていて、久々に訪れた私を和ませてくれました。

とはいえ、なだらかな起伏の丘の緑、村落の中央に聳える教会の尖塔、牧歌的な牛の声をのせるサラリとした大気、典型的な針葉樹林など、ドイツの風土はまったく普通通りでした。都市の中には碑や彫像をもった大きな公園があり人工造のために新築された団地がもとの街との間に違和感を覚えさせない点なども、当時と全く変わっていません。

とくにマールブルクのような小さな都市では、良言は親切、悪言は憎め、かき、ドイツ人特有の人情が、また豊かに残っていて、久々に訪れた私を和ませてくれました。

とはいえ、なだらかな起伏の丘の緑、村落の中央に聳える教会の尖塔、牧歌的な牛の声をのせるサラリとした大気、典型的な針葉樹林など、ドイツの風土はまったく普通通りでした。都市の中には碑や彫像をもった大きな公園があり人工造のために新築された団地がもとの街との間に違和感を覚えさせない点なども、当時と全く変わっていません。

とくにマールブルクのような小さな都市では、良言は親切、悪言は憎め、かき、ドイツ人特有の人情が、また豊かに残っていて、久々に訪れた私を和ませてくれました。



十数年ぶりに曾遊の地ドイツを訪れた。もちろん全部で三週間あまりの旅の途中でしたから、ほんのり高見に過ぎませんが、やはり、変わった所、変らない所があるように思えました。

まず服装ですが、昔だったら町を歩くのにネクタイをきちんと結び、上表を着ていないといけなかつたものが、今は開襟シャツなどの姿がかなりの路上で見られます。まさに開かれたドイツといったところですが、似たことが駅や街角の案内板で見られました。

たとえば出発、到着、料金所といった標示に、ドイツ語と並べて英語が、決して観光地ではない小さな町でも書かれていました。ハインベルクなどでは道を歩いていて耳に入る会話の三分の一は英語で、ココロの盛大な進出と

ゲッティング・クリム童謡碑の前にて一後に見えるのは新しい出来た団地ですが、新旧の景感に違和感がありません。

相まって、アメリカナイズも相当進んでいると見受けました。

大学も変貌しつつあります。学制改革による学部運営法の変化については、本学唯一のドイツにおける日本人教授である高野光司君が、かつて千葉医学会雑誌(1)巻4号)に寄稿されているので省略しますが、形骸的にみても、学部の集中化が始まっているように

つまり、何々教室はモコモコの通りに、何科は何町といったように、市中の処々方々に分散していったドイツの学部や教室が一定の構内に集められようとしていくわけです。もちろん旧市街内でそれをやることはできないので、郊外にある所に壮大な敷地を設定し、そこに地割りが行なわれて高層の建物が続々と建てられてきました。まさに私有地を買上げたわけではないのですが、とにかくミミチ日本のやり方と比べると、想像を絶する断行ぶりといえます。

内容も改められてきました。私が居りました当時の学生の最高定員は百二十名でしたが、今度行って見たら二百五十名になっていました。もっとも単位制が行なわれるので一回の講義に加わる人数はそれほど変らないのですが、教育に費される教官の労力は倍加したことになると思います。とくに実習はスモール・グループで行なうために

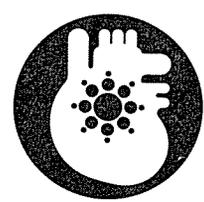
テレビとカセットテープが用いられています。ゲッティング大学生理のテーマは高野教授の苦心の作だそうで、学生一人に一つずつあてられ、学生が独学でやるように、上手に作られていました。

この設備の予算が国から出ないことは日本に似ていますが、大学のアピールによって出資してくれることなどは、彼らの価値感の大きな相違点だと思います。タバコ物価も上げていました。タバコが二倍、ビールが三倍ほどの値上りでしたが、一方ケウワリなどの野菜は十四年前とほぼ同じでした。フンボルトなどの給付金もそれに際して上っているの、エッセンの小山明君、ゲッティングの石田貴和君などの留学生達は、結構優雅な生活を送っており、ジレットがまの昔の留学生とはかなり違っていました。

とはいえ、なだらかな起伏の丘の緑、村落の中央に聳える教会の尖塔、牧歌的な牛の声をのせるサラリとした大気、典型的な針葉樹林など、ドイツの風土はまったく普通通りでした。都市の中には碑や彫像をもった大きな公園があり人工造のために新築された団地がもとの街との間に違和感を覚えさせない点なども、当時と全く変わっていません。

とくにマールブルクのような小さな都市では、良言は親切、悪言は憎め、かき、ドイツ人特有の人情が、また豊かに残っていて、久々に訪れた私を和ませてくれました。

Drug Rehabilitation



冠循環・心機能改善剤

イリダマン錠・注

(塩酸オキシフェドリン)

中外製薬株式会社 東京都中央区京橋2-2

薬価基準収載

●薬価

錠：8mg | 錠 16.20
注：0.2% | 管 75.00

◇児玉書簡◇

学歌に寄せて

今年の春のことです。名誉会員の児玉先生から当編集委員会宛にお便りをいただきました。一寸その前文を引用させていただきますと……「陽春の候となりましてが皆様一同ご健康のことと存じます。春ともなれば亥鼻台上の桜花が懐しがられます。十有五年青壮年時代を過ぎた亥鼻台が三十有余年後の今日に到つても晩に焼きついでいます。現在千葉大学の学歌というものがありませんか、ありましたら順序の節にお聞かせ下さい……とありました。その後の編集委員会の折、このお便りをご披露したところ、一体大学歌があるのだろうかと同頭をひねりました。よくしらべてみるとなんと昭和三五年に作られた「千葉大学歌」というのがありました。紙面の都合上楽符は省略いたしますが、歌詞とともに児玉先生のお便りの一部もご紹介させていただきます。

千葉大学歌

勝 承夫 作詞
平井康三郎 作曲

(一) 若い空 若い地、房総の 風は歌うよ

大洋の意気 寄せるころ 内海の和気たようところ

みよ 青春の 花のようこび 千葉大学 心のふるさと

(二) 晴れたる 満ちわたる 新鮮な 汐の香りよ

向学の窓 清らに高く 探究の庭 はてなく 広く

みよ 燦然と叡智あつまる 千葉大学 文化のさきがけ

(三) 若い雲 若い鳥 黎明の 星は光るよ

躍進の道 はるかにひらけ 純情の友 楽しく競う

みよ 永遠の聖火燃えたち 千葉大学 栄あるまなびや

大学出身者と合同すべきかどうか、十有五年の昔、まるで夢のような問題になって、いわゆる狂心曲がせられ、昭和十五年、乱暴の時代でありまして、とて教授会を押し切つて、あのはな同も歌なんか口ずさむほど、のんき窓の第一回の会合を開きましたな時代ではありませんでした。その問題で教授会が毎日夜遅くまで開かれたのでした。思えば三から統々と押しかけ、買切りパ、

たつた大学を訪問して、情報をキャッチしました。当時解剖学の一助教授であられた現名古屋大学々長の畑田氏を私的に訪問したとき、名古屋医大の出身である同氏は、「同じ助教授でも東大出の新任の助教授の方が月給が高い。それで、私は東大出の者と同一月給でなければ辞任すると、学長に抗議して漸くにして認められて」と涙ながらに話されたことなど思い出されますが、鈴木現会長も同じような問題がありました。国立病院院長に赴任と同時に教授に昇任されたが、この教授は学外教授で、教授会に出席しない教授だ、と噂が立つて、私達はさっそく抗議に出かけたものです。

先般は立派な語心の会員名簿をお贈り下され、有難く御礼申し上げます。この会員名簿の作成にも数々の思いがあります。まず全国の会員を結集するには、会員名簿の作成のほかに、いかに全国的に激を飛ばしてお金を集める手段を考えました。おかけさまで、打てばひびくようにお金ほ所期以上に集まりましたが、すでに当時わが国は戦時体制下にあって、米も配給砂糖も配給して、いう時代ですから、紙の手当がつかみません。ようやく集まったお金で専断の事務局を雇うことができたので、その人達を励ましてやと不完全ながら名簿ができました。昭和十五年です。会員名簿第一号は昭和十五年であったはずで、どこかの倉庫に眠って、

急告!

今年も余すところ一ヶ月定らずです。六月以来四金金を開催しておりますが、年末はいろいろご予定もあり、ご多忙かと存じますので、来年一月に新年宴会として開催する予定です。当日は三輪名譽会員、福沢特別会員、尾木、山口、古川各会員の叙祝賀も併せ行ないますので、多数のご参加をお願い申し上げます。

■健保適用

国産で初めての
セファロスポリン系抗生物質



筋注用 / 注射用

〈包装〉セファメジン筋注用(無痛性溶解液添付)
0.25g (力価), 0.5g (力価)
セファメジン注射用 0.25g (力価)
0.5g (力価) 1g (力価)

藤沢薬品 大阪市東区道修町4丁目3 (東京・名古屋・広島・福岡・札幌・仙台)

使用上の注意は製品添付文書参照のこと

内科専門医試験 はじまる

日本内科学会は、昭和四十二年十月に発定した内科専門医制度が今年で満五年となり、発定時にAコース(内科学会が認定した教育病院における研修二年)と同教育病院における研修二年(同教育病院またはその関連病院における研修二年、計五年)の研修を始めた第一期研修生が研修期間を終了したため、第一次試験(筆答、Multiple choice 方式採用)を十一月十五日、第二次試験(口答)を十一月十一日に行なった。

今回の受験者は第一回目ということであったためか十七名であった。この制度は、内科医としての広

い知識と練磨された技能をそなえた優れた臨床医を社会におくり、社会一般の人々がより高い水準の医学の恩恵をうけられるよう社会の福祉に貢献し、併せて内科学の向上をはかることを目的としており、したがって、認定試験は内科専門医制度研修カリキュラム案にのっとっての内科全般の普遍的知識ならびに、臨床実技の評価のためのものである。筆答試験は内科九つの分科から出題され、それぞれ定められた基準以上の成績をあげなければ、たとえ総得点がよくても不合格。口答試験では、研修者が受験のさい提出した各種疾患受持ち入院患者五十症例、剖検五症例の病歴の抄録を重視し行なわれた。

吉野山吟行

やはぎ会

吉野の沢井豊之助(俳号 山脚米)先生(昭・口答)のお誘いで去る十一月十日より十二日にかけて「やはぎ会」一行十二名が吉野山の紅葉を訪ねた。花時の盛々しさとは打ってかわって、日曜日の吉野山はまことに静かであり同心ゆくまで探訪した。山脚米先生御夫妻の格別のお世話で、一行が旅装を解いた八木屋は、かつて加賀谷丸秋先生御夫妻はじめ有名俳人が数多く定をとめた宿で、主人の平井氏も枝風と号してその道をたしなむ方であった。一同紅葉のあま

りの美しさについて奥へ奥へと音清水から西行庵まで足を運んだ。建久年間西行が俗塵をさけて三年間庵を結んだ跡は今もなお名残をとどめ、根上りの紅葉の大樹を前に静かに古を偲ばせていた。

尊守の知らざる谷の紅葉かな
沢井山脚米
遊来の友に吉野の紅葉冷え
沢井 悦子
峰紅葉短く燃えし南朝史
秋原 季葉
濃紅葉や濃く世を生きし人のありし
村山ざとし
住みつきてそこの山の紅葉遠く
森 和夫
谷紅葉先ゆく声のほろくる
上山 永寛

短歌

老母骨折

井上駿一教授に

桑田次男

レ線フィルムの白き亀裂よわが母の大腿骨折疑いもなし
紅のわが血液はゆるやかに母のかいなに入りてゆくかも
わが母をのせし車に寄りそいぬ手術室への廊下は長し
手術台にむかいて歩む若き教授の中ひろき肩をたのもしと見つ
わが母は深き眠りにおちたるらし慈なまを折りて手術室を出つ

端正に柿の葉壽司や紅葉宿
高橋いさお
むらさきの吉野山なみ秋晴雨
館野 之男
行く秋や風の中なる隠者
増田 善昭
王朝の二つの戦中散る紅葉
小野 忍
吉野山葉は地に還る冬近し
今田屋 章
月まのしよしよつこの土地
疵の
大里 克信
散紅葉踏みつやがて黙つ
磯部まち子
紅葉せる葉裏の平明りかな
大八木晴子

落葉のなかの

るのほな祭

本年度「るのほな祭」は十月二十七日より二十九日の三日間開催されたが、近年にならみしく、往年の市民ともども明るい雰囲気はみられず、いかげんに説明しても事実曲り角に来ていることは否ばなるまい。

医師国家試験

合格者発表

第五十六回医師国家試験が昭和四十八年十月七日から十日まで、全国三万所で行なわれ、その合格者が十月三十日に発表された。今回の受験者数は九二三名(北大平均を上回った)。

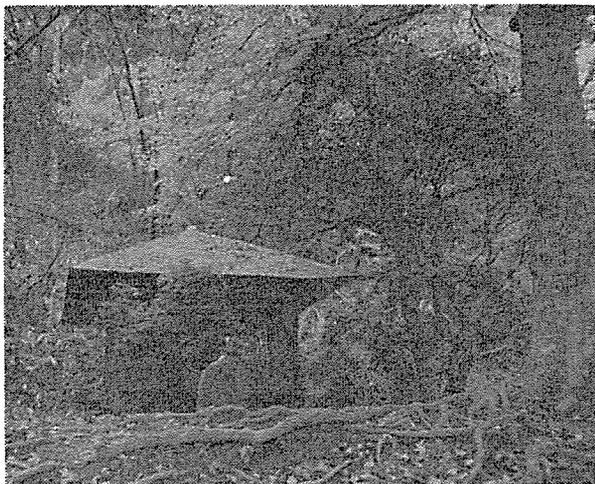
あとがき

◇このところ会報の頁数を少くいたしました。印刷紙底を早くも察知したのかとの問い合せもありましたが、それも一つの理由ではありますが、発行を早くして回数を増す努力をしようとしていたわけです。相変らず原稿が不足しておりますので、ご投稿をお待ちしております。

◇いま、むかしは鳩の森を予定しましたが、次号に掲載いたしました。

印刷所 新柳印刷株式会社
千葉市葛城一八一

電話千葉〇四七二四四六六一



奥吉野西行庵

●三共が開発したマイナートランクライザー

セレナル

— 社名: Oxazolam —



■健保適用品 (要指示医薬品) (副作用、使用上の注意は添付文書をご覧ください)